

『みんなの図書館』2014年2月号（図書館問題研究会 2014年1月10日発行）

図書館友の会山口県連絡会の周南市新駅ビル図書館に対する要請活動

図書館友の会山口県連絡会事務局 藤村 聡

山口県周南市は11月18日に新駅ビル整備事業に関しカルチャ・コンビニエンス・クラブ(CCC)と連携合意の共同声明を発表した。図書館友の会山口県連絡会は10月以来見直しを含め慎重な対応を求める要請活動を行っており、その経緯と今後の取り組みを簡単に報告する。

1 要請活動の経緯

現在の老朽化し衰退してしまった徳山駅ビル(店舗はすべて撤退し公共スペースとなっている)を建替えて、5年後に改築オープン予定の新駅ビル(約4,500㎡)の公共スペース(約3,400㎡)内に図書館を入れ、CCCが指定管理者として運営するとともに、ツタヤとスタバが出店して賑わいと交流の場にとの基本構想案が、10月7日議会の特別委員会に示されたとの報道に驚き、要請活動を始めた。

今年5月「徳山駅周辺デザイン会議」から整備基本構想(素案)が提出されたのに対し、6月の議会では「賑わいが期待できない」「民間活力を導入すべき」との意見が出て、8月下旬に特別委員会や市幹部が武雄市図書館を視察して「新駅ビルに導入できないか」となり、意見を踏まえて整備部が「新たな徳山駅ビル整備基本構想(案)」をまとめて提示した。

この基本構想案には、新駅ビルの構成とイメージとして「民間活力導入図書館」とあり、既にその例示に武雄市図書館内とBook&Cafe(スタバ)の写真が掲載され、整備事業の進め方の施設運営として「指定管理者制度等により民間企業の経営手法等を活用しながら、賑わいや交流を創出できるような公共施設となるように、積極的に民間活力の導入を図ります」と記載されていた。

① 10月28日の要請活動

新駅ビルに図書館が入ることは前から聞いており、もっと注視しておくべきだったと反省しているが、まず、特別委員会委員の市議会議員と周南市立中央図書館長に面会し、状況を尋ねて事実を確認し、直接担当の中心市街地整備部と教育委員会へ10月28日午後に当会代表ら5人で訪問した。

整備部、教委ともに約30分強の面談であったが、後掲の要望書と資料を読み上げて簡単に説明し、図問研はじめ図書館界ほかからの疑問・批判の見解などの元資料も手渡し

た。整備部長は具体的にはまだ何も決まっていないが CCC との接触は続けているとのこと。教育長・教育部長との意見交換でも問題点が多いことはある程度まで認識してもらえたようであった。

周南市では 10 月 30 日の臨時議会後の全員協議会で他の重要案件(新市庁舎建設基本計画素案、公共施設再配置の基本方針素案)とともに、新駅ビル整備基本構想案が中心市街地における公共施設の在り方についての関係調整として協議され、市長も上記の整備方針を訴えたとのこと。さらに 11 月 5 日夜には樋渡武雄市長が山口県中小企業経営者協会の招きで講演に来周南した。

11 月 5 日の議会特別委員会を経て、翌日の「中国新聞」には「新徳山駅ビル 月内にもツタヤ合意、周南市 図書館の運営連携で」のタイトルで「周南市は 5 日(中略) CCC と 11 月中にも運営の連携に合意する見通しを明らかにした」との記事。また、夕方の NHK 山口放送局のローカルニュースでは「JR 徳山駅ビルに民間の図書館」が流され、昨晚の樋渡市長の講演会の様子や武雄市図書館の館内が放映されて、「中心市街地の活性化につながるのか注目ですね」とのコメント。多くの問題点があるにも関わらず、武雄モデルに飛びつき 8 月末の視察後 2 カ月余で決めてしまうとは、あまりにも拙速の急展開であり、愕然とするとともに想定外であったというのが実情で誠に無念である。

② 11 月 12 日の学習会

この件に地元市民の運動が無いのは残念で、これから市民に問題への理解を広げていく必要があるが、丁度「武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会」の井上一夫代表世話人から提案があり、大阪の「明日の中之島図書館を考える会」での講演の帰りに周南でもとの厚意に、早速新南陽図書館友の会の協力を得て、11 月 12 日に「図書館を学ぶ会」(演題：まちづくりと図書館 ～武雄市図書館、本当の図書館ですか?)を開催した。チラシは市会議員、市長部局、市教委、新聞・テレビ各社、各図書館、友の会員等に配布したものの、急でもあり参加者がどうなるか心配だったが 34 人が集まった。

参加者はパワーポイントの映像と講話とで、武雄市図書館の変貌、実情や実態がよく分かり、あまりの変わり様はもちろん、その手法のひどさにも驚いた様子で、新徳山駅ビルへの導入について慎重に検討していくための判断材料になったのではないと思われる。質疑応答も活発に交わされ、問題に対する関心の高さも予想以上で、望ましい図書館の在り方やまちづくりと図書館の関係を考えるうえでも参考になり、市民にとって得難い機会ともなった。新聞各社も来場し翌日の中国新聞には「徳山駅ビル図書館計画、武雄の現状市民学ぶ、来館増 主要部は店舗」のタイトルで記事が掲載された。

少しでも多くの市民に問題意識を広げていく契機になるとともに、要請活動の中で市民の声を生かし届けていくうえでも「図書館を学ぶ会」は有意義であった。

③ 11月18日の要請活動

11月18日に周南市とCCCの連携合意が、周南市役所での合同記者会見で発表された。夕刻に県内テレビ各社がローカルニュースで放映し、11月19日の新聞各紙にも木村周南市長と高橋CCC執行役員との握手写真とともに報道された。「中国新聞」には「周南市・ツタヤ連携発表 新徳山駅ビル計画 市民要望調査へ」「新駅ビル 周南市が連携発表 長年の懸案に方向性 民営図書館 市民に賛否」のタイトルで「図書館利用者からは市に注文も。武雄市図書館の勉強会を開いた新南陽図書館友の会の山本邦子さんは「周南市は成功例に前のめりになって進めている印象。武雄市図書館の動向をしばらく検証し、充実した図書館になるよう慎重に検討してほしい」と求めた」の記事が掲載された。

この18日午後に当会代表(立教大学名誉教授・図書館学)と2人で周南市役所を訪ね、議会正副議長(約40分間)と青木副市長(約1時間)に面談して、問題点を指摘し慎重な対応を求める要請活動をした。副市長は「今日がキックオフです」と言われ、これからCCCがアンケート調査してどのような施設にしていくか提案し協議を詰めていくとのこと。また新駅ビルの基本設計(今年度中)と実施設計(来年度)とのプロポーザル公募中で、CCCとの協議の結果を設計に反映させていく。まだCCCを指定管理者にと確定してはならず、条例改正は来年度になるだろう。既存の中央図書館はじめ5館は従来どおりの管理運営で継続し、駅ビルの新館を民間運営してみるのであり、指摘された問題点については留意しながら、武雄市の二番煎じではなく周南独自のものになるよう努力したいとのことであった。

議長は、議会として武雄市図書館を視察したのち協議し、基本的には武雄市を参考にしながらも、周南市と武雄市とは条件もかなり違うし、特に既存の5館は従来どおり運営、新駅ビル内図書館も周南の特徴を出したい。指摘の問題点は議会としても受け止めて、要望書と説明資料は全議員に配布するとの由で、確認したところ各議員にFAX送付されたとのことであった。

2 これからの取り組みと考え方

周南市HPに12月3日開会の市議会一般質問通告がアップされた。3人の議員が新駅ビル問題を取り上げており、このうち女性議員は「図書館を学ぶ会」にも参加された。一般質問通告の内容では、図書館、指定管理、CCC、共同声明、ツタヤ&スタバ等かなり突っ込んだ質問となっており、地元の方と一緒に傍聴する予定でいる。公共施設再配置や新市庁舎建設問題に関連して、新駅ビルに触れる議員も居そうだ。執行部がどの程度の明快な答弁をするかは疑問であるが、今後の要請活動、学習会の開催や特に3月議会への対応など、これからの取り組みに向けて参考にするために注視したい。

周南市は旧徳山市・新南陽市・熊毛町・鹿野町の合併市で、徳山駅はその表玄関になるのだが、隣接の下松市に大ショッピングモールが開店して以来、中心市街地が寂れていくのに伴い衰退した。新駅ビルにかつての賑わいを取戻し、大きな課題である中心市街地の活性化を図りたい気持は痛いほど分かるが、まちづくりは安易な外からの借り物ではなく、地域の内発的・内在的なものに根差すのでなければ持続的発展は難しいと予測される。図書館にはまちづくりを考える種々の資料・情報を市民に提供し様々な活動をする広場として、充実したサービスを展開することを切望している。

武雄モデルには多くの問題点があるが特に T ポイントだろう。自動貸出に伴う T ポイント付与は、連携企業の営利につながるとともに、登録者の利用データが商業用データとしても活用されるばかりでなく、憂慮すべきはポイント付与によって図書館利用を促進する、いわば金銭により読書を奨励することになることだろう。まさに図書館の商業化であり、特定の企業に便宜供与して図書館が商業的に利用されること自体も問題である前に、教育機関である公立図書館としては禁断の手法であろう。

中央図書館が徳山駅ビル前の道を北へ 1 キロ以内に在り、新駅ビル図書館を特区的に考えているのかも知れないが、まがいものの図書館、偽装表示の図書館が広がり、図書館本来の使命や役割が軽視や無視されていくことが危惧されるとともに、指定管理者制度が他館に波及することも心配である。

ただ、開館は 5 年後でまだどう変化するか不透明でもあり、息長く運動を続けていく心算でいる。

皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。